

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名： 歴史と文化  
部会長名： 高田京比子  
作成者名： 高田京比子

概要（2000字）

**（1）組織・運営について**

本年度の歴史と文化教育部会は、人文学研究科の日本史学、西洋史学、東洋史学、美術史学に所属する計14名の教員、国際文化学研究科のアジア・太平洋文化論、日本学、ヨーロッパ・アメリカ文化論のうち歴史を専門とする計5名の教員、同じく国際文化学研究科の比較文明・比較文化論で科学史を専門とする1名の教員、人間発達環境学研究科人間発達専攻表現系講座に所属し近代建築史、西洋音楽史・音楽美学、音楽民族学、ファッション文化論・表象文化論を担当する計4名の教員から構成されている。これに考古学2名、日本史3名、科学史1名の非常勤を加えて、日本史・西洋史・アジア史・東洋史・美術史・芸術史・科学史・考古学の7科目の授業を提供した。昨年度からの大きな変化は、科学史の教員一人が定年退職となり、その後任が科学史専門ではとられなかったため、科学史の専任が一人となってしまったことであろう。今年度は、非常勤を割り当てていただくことで、昨年度と同様の授業コマ数を提供することができた。

**（2）実施状況について**

**①教育内容**

シラバスを見れば、扱う対象は、唐宋時代の中国から、現代のラテンアメリカ、あるいは近世フランスなど時代的にも幅があり、また地域を取ってもヨーロッパ、インドネシア、イスラム世界、中国、日本とバラエティに富んでいることがわかる。また狭義の歴史だけでなく、「演奏会の社会史」や「日本における西洋建築の歴史」など、広く歴史に関わる文化的な内容が用意されている。このように、当部会の提供する教育内容は、教員数相応に幅広い分野にわたっており、受講生の多様な関心に答えることができる。また、当部会の科目は、全てグローバル関連科目に指定されているが、本学のグローバル人材育成推進事業が目指す二つの能力、「多様な価値観を尊重する」「異文化・日本文化を深く理解する」にも、よく合致する内容である。

**②教育方法**

授業の形態は講義形態が主流であり、150名近い学生を対象としている場合もあるが、授業アンケートでは、概ねよく理解され有益であったと回答されている。また小テストを行っている教員は昨年度から引き続き存在するが、クォーター制となり試験の回数が倍になったため、小テストを行わなくても学生の理解度が測りやすくなったかもしれない。ただし、その分、試験の負担は倍になり、また7コマ半の内容に関する試験となるため、1回の試験で問う内容は、コマ数相応に質・量とも減っていると考えられる。BEEFの活用も見られる。

**③クォーター制の導入**

実施に関する本年度の大きな変化は、何と言っても、クォーター制が導入されたことである。今まで15コマを費やして教えていた内容を、半分の7コマ半に分ける工夫が必要となり各教員さまざま苦勞したようである。第1クォーターと第2クォーターで異なる内容を提供し、学生がひとつの科目についてより多様な内容を学習できるように、歴史と文化部会では配慮して日本史、西洋史などすべての科目についてAとBを用意したが、じっさいは、

A と B の両方を履修する学生はそれほど多くなく、また A と B に分けても、結局導入部分  
は同じ内容を繰り返さなければならないなど、いろいろ今後に課題を残すことになった。し  
かし、抽選制が廃止され、学生が各自の興味に従って科目を選択することができるように  
なったため、以前よりも学生の反応が良くなった、という声も聞かれた。

### (3) 課題および総合所見

昨年度、歴史と文化教育部会では外部評価を行ったが、そのときも話題になったのが、時  
代背景をどの程度説明するか、学生の既得知識の差をどのように処理するか、という長年に  
わたって歴史と文化部会が抱えてきた問題についてである。今年度は、その解決に向けて、  
ちょうどピア・レビューが回ってきたこともあり、学生アンケートにおいて受講生が多いに  
もかかわらず理解度・満足度が高い教員に依頼し、授業を公開してもらった。当日は、部会  
の教員に加えて FD・評価委員の先生もお越し下さり、理系の先生方からも「世界史の知識  
がなくてもわかりやすい」という意見をいただいた。しかし、これは内容の専門性が低いこ  
とを意味するのではなく、当日出席した私を含めた歴史専門の教員が聴講しても興味深い  
ものであった。ポイントはいくつかあるが、やはり地図の有効な使用や、重要な事柄は何度  
か繰り返して伝えること、知識を詰め込み過ぎず本質的に伝えたい事柄を絞ってそこを掘  
り下げて講義することなどが、挙げられるだろう。これらはもちろん講義を準備する際の基  
本であるが、あらためてその点を確認できたことはよかったと思う。ただ、この教員をして  
すら、授業振り返りアンケートを見てみると、文系の学生の方が、理系の学生より理解度・  
満足度とも高い得点を記録しており、基礎知識や関心の差は埋めがたいものがあるのか、と  
感じざるを得なかった。

もっとも、歴史と文化部会の提供授業は、全体としてバランスの良い多様な科目を提供し  
ており、また授業振り返りアンケートによる理解度・総合評価も平均4を超えるまずまずの  
できである。いずれにせよ、上述したピア・レビューや部会会議での意見交換を経て、より  
良い授業を提供していくことに努めていきたい。

教育部会用自己点検・評価シート（様式1）

## 項目・観点ごとの記述

### 基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それ  
に基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位  
名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術  
の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

#### 観点到る状況（150字以上）

担当教員の全員から「はい」との回答を得ている。またシラバスによれば、個々の教  
員が最新の研究成果に注意をはらいながら授業を組み立てていることがわかる。用意さ  
れている授業は内容も多様なものであり、さらに、同一の科目についても A と B の 2  
種類の授業が用意されている。学生はそこから自分のニーズに合わせて授業が選択でき  
るようになっている。

#### 根拠資料

シラバス、配布資料

**5-2【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】**

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上） 歴史と文化教育部会においては、基本的に講義形式で授業を行っている。そのなかでも例えば、授業中に質問票を実施してそれに対する回答を逐次実施したり、考古学では現物を回覧したり、さまざまな工夫が行われている。また討論を主体とする授業では毎回本を読ませて確認で文章を書くという作業も取り入れており、全体として講義ばかりにならないような配慮がなされている。
根拠資料 シラバス

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上） すべての教員が「はい」と答えている。小テスト、授業中の質問票、授業参加のための予習としての読書など、学生の主体的学習を促し、単位を実質化する配慮がなされている。また出席状況の的確な把握に努めている教員もいる。
根拠資料 シラバス、出席簿

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上） すべての教員が、「はい」と答えているが、学生側がどの程度シラバスを把握しているかはわからない。ただ、今年度から抽選制が廃止され、学生が主体的に授業を選ぶことになったので、かなりの学生がシラバスを読んだ上で授業選択を行っていると考えられる。
根拠資料 シラバス

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上） この点は概要でも書いた通り、歴史と文化教育部会にとってもっとも難しい問題である。ただし、ピア・レビューを行った教員の授業は、理系の参加者にも大変好評であったため、わかりやすい授業のためのひとつの指針となる。
根拠資料 ピア・レビュー感想レポート

**5-3【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】**

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

総じてシラバスではどのような基準で成績を評価するかということが、明示されており、それにそって成績評価が行われている。小テストを行っている授業も多いが、そこでは、ほとんどがその配点、比率などについて明示している。

根拠資料 シラバス、答案

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）

上でも述べたように、シラバスでは、成績評価の際に、出席点、小テスト、期末テストなどをどのような比率で用いるか、ということが明示されており、客観性・厳格性を担保する措置が講じられている。また授業中にも適宜、成績評価についての情報が周知徹底されている。ただし、成績分布表によると、歴史と文化教育部会では秀の割合が10%を超えており、今後改善が求められる

根拠資料

シラバス、答案

## 基準6 学習成果

6-1【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上）

ほとんどの教員が、授業評価アンケートや試験答案に基づいて学習成果が上がっていると判断している。自己評価で「いいえ」を回答した教員も、授業中にレポートの書き方をレクチャーしたとしており、一定程度の成果が上がっていると判断できる。

根拠資料

答案、教員自己評価

## 基準7 施設・設備及び学生支援

7-1【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

共通教育部門において個別ブースを備えた自主学習室が整備されているほか、本教育部会メンバー教員の所属部局それぞれにおいて、近年、ラーニングcommonsやグループ学習室が整備され、ハード面での自主的学習環境は充実傾向にある。

根拠資料

附属図書館、大学教育推進機構の自習室、各部局のラーニングcommons等

## 7-2【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

すべての教員が「はい」と回答している。シラバスでは授業の内容がよくわかるように、授業のテーマと目標、授業の概要に分けて記されている。またそれに加えて概ね、初回の授業において、授業内容の確認が行われているようである。

根拠資料

シラバス、教員自己評価

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。  
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

すべての教員が「はい」と答えている。シラバスにはオフィスアワーが明示されており、学生がコンタクトをとれるようになっている。根拠資料として、オフィスアワーの記録やメールのやりとりをあげている教員もおり、個別の学生のニーズに応じていることがわかる。

根拠資料

オフィスアワーを実施した記録、メールのやり取り